

学ぶ意欲をもって、生き生きと学習する児童の育成

～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた工夫を通して～

「ユニバーサルデザイン」

・教室環境(ユニバーサルデザインの視点から)

◎子供たちが気をそらさずに授業に集中できるようにする

→教室前面の掲示物は、教育目標類のみ

→教室前の棚はカーテンを閉める

→テレビは教室廊下側（安全フック有）

◎子供たちが見通しをもてるようにする。

→本時の流れを簡単に示す。（ホワイトボードが各クラスにあるはず。）

→大きめのタイマーを教室に置く。

→時間をかける単元については、単元計画も掲示するとよい。

すべての児童が「分かる・できる」「楽しい」授業 = ユニバーサルデザインの授業
を目指していく必要性

～ユニバーサルデザインの視点に立った手立て～

焦点化

ねらいや活動を明確にする(しぼる)ことで、達成感が確認できるようにする。

視覚化

視覚的な理解を大切にし、確かな理解のもとで活動できるようにする。

共有化

友達の思いや考えを知り、自分の考えをもったり、深めたりすることができるようにする。

そのために…

環境の工夫

落ち着いた教室環境、
見やすい掲示物など

活動の工夫

効果的なペア、
グループ学習など

教材の工夫

ヒントカード、視覚
教材の効果的活用
など

評価の工夫

児童に対する明確な
到達目標の提示、評価
方法の明確化など

情報伝達の工夫

構造的な板書、
ハンドサインなど

研究の経過（平成29年度～平成31年度）

意欲的に学び、よく考え表現する子供の育成

～「書く力」を育てる指導を通して～

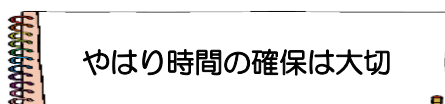
【教育目標「かしこく」の具現化をめざしたカリキュラムマネジメント】

書く力を高める手立て

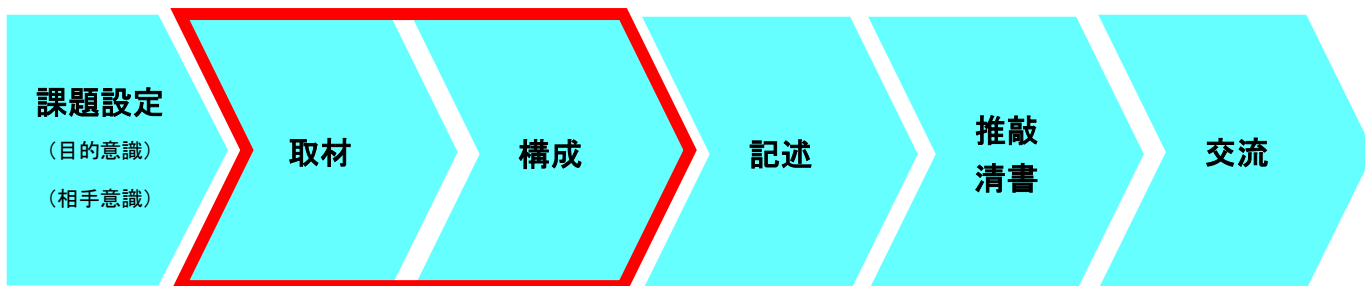
①意欲を高める

「～のために」「〇〇に読んでもらいたい！」ここで大切になるのは、やはり「目的意識」や「相手意識」です。自分が書いた文章を読んでくれる人がいることが大切です。「書く」ことに意味をもたせるだけで、意欲が高まる子供の数が格段に増えます。

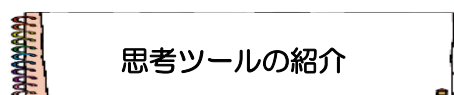
②考えを深める



書けない原因の1つに、書く題材が決まった後、すぐに書かせていることがあります。書く指導では、このような指導過程があります。



この「取材、構成」の指導時間をしっかりと確保し、適切な手だてを行えば、子供の考えは深まっていきます。



「いきなり作文を書かせていませんか。」

私たちも、自分の指導を見直すきっかけになりました。



本研究では、思考を深めるために、様々な思考ツールを活用しました。考えをもったり、整理したりしたいときには、とても有効な手だてです。

4年生の研究授業では、クラゲチャートを使いました。



◇クラゲチャートでの交流の仕方◇

- ①頭に、自分たちの意見を書く。
- ②発表しながら付箋に自分の考えを書き、クラゲの足として貼っていく。
(同じ意見はまとめる。)
- ③友達の意見を聞いて付けたしたいことを発表し合い、足に付けたしていく。

付箋も手軽な思考ツール

研究を進める中、とても手軽で利用しやすい思考ツールを発見したのです。

そう、付箋です。大きさも様々あり、書いたものを移動しながら、考えを整理できます。二小では、付箋の減りが早くなりました。

③知識・技能の習得

書きたいという意欲やこんなことを書きたいという思いがあっても、それを「どう表現したらよいのか」でつまづく子供もいます。そんな時に有効な手だては「モデル文」です。国語科の教科書にもたくさんの「モデル文」が例示されています。

「教師がモデル文を作ってみよう！」—モデル文の提示—

教科書に載っているモデル文はその単元で身に付けさせたい知識・技能を踏まえて作られており、見本となる文章となっています。ただ、子供によっては、それでは難しく感じる場合があります。

そんな時、つまづいている箇所を焦点化させたいなど、その状況に合ったモデル文が欲しいと思うことはないでしょうか？そんな時には、教師がモデル文を作ることをお勧めします。

また、一度作っておくと、同じことを指導するときに、再度、子供たちに提示することができます。

モデル文の他にも

今までの学習で学んだ事（書き方）を提示する。

グラフや表を用いて書く

- ・目的に合った資料（グラフや表、図、写真）を選ぶ。
- ・資料と文章を対応させて書く。
- ・資料から分かることと、自分が考えたことを分けて書く。

（光村図書 5年 P.153 たいせつ より）

④他教科等での活用

本研究では、国語科で学んだことを、他の場面でも活用していくことで、「書く力」が更に伸びていくのだと考えています。ここでは、その一例を紹介します。

活用例 第6学年 社会

「平和で豊かな暮らしを目指して」

歴史の学習の最後に、「歴史の学習で学んできたことを、これからどのように生かしていけばよいか。」を考える学習があります。

ここでは、6年国語「未来がよりよくあるために」で学んだ意見文の書き方を活用し、自分の考えをまとめる学習を取り入れました。

（新しい教科書では、意見文の書き方は5年生に移行しています。）

国語で学んだ意見文の書き方

説得力のある意見文を書く

- ・「初め」と「終わり」に自分の意見を重ねて書く。
- ・実際にあったことや、それらの記録（具体例・引用など）と、自分の考えを区別して書く。
- ・ことなる考えや反論を取り上げ、それに対する自分の考えも入れる。

（光村図書 6年 P.99 たいせつ より）